

馬産地ライター村本浩平の 2017 スタリオンシリーズ競走種牡馬名鑑

Vol. 3 | 7.25 [火] ▶ 8.17 [木] 開催分



7.25
[火]

ダノンシャーク賞

新種牡馬

ダノンシャークは父ディーピンパクト、母カーラパワー(母の父Caerleon)の9歳馬。繋養先は日高・ブリーダーズスタリオンステーションとなります。初勝利はデビュー4戦目となる3歳未勝利戦、オープン入りは3歳末と晩成の成長を遂げたダノンシャーク。4歳時からは芝マイル重賞の常連となっ ていきますが、その際、5年連続で出走しただけでなく、GⅠ初勝利をあげたのがマイルCSでした。4歳時は6着。1番人気の支持を集めた5歳時は3着。そして6歳時は2着に入ったフィエロとの叩き合いを制して優勝。7歳時には10着でしたが、引退レースとなった8歳時には4着と衰えぬ力を証明しました。2017年シーズンからスタッドイン。芝のマイル戦を沸かせたスピード能力の高さだけでなく、その息の長い活躍が証明しているように、体質の丈夫さもまた産駒に遺伝されるはず。競走馬としてだけでなく、種牡馬としても長きに渡って重宝されるような存在になってくれそうです。

7.27
[木]

モンテロツソ賞

【王冠賞 [H2]】

初年度
産駒
デビュー

モンテロツソは父Dubawi、母Porto Roca(母の父Barathea)の10歳馬。繋養先は日高のダーレー・ジャパンスタリオンコンプレックスとなります。名馬Dubai Millenniumの残した貴重な後継種牡馬Dubawiの初年度産駒であり、5歳時にドバイワールドカップをレコードで優勝と、センセーショナルな活躍を見せたのがモンテロツソでした。また、3歳時にはキングエドワード七世S、4歳時にはドバイシティオブゴールドと毎年のように重賞を勝利し続けた成長力もまた、特筆すべきものでしょう。古馬となってからも活躍を続けたモンテロツソですが、今年、日本でデビューした初年度産駒のビリーバーが2歳未勝利戦を勝利と、仕上がりの早さも証明。現役時の競走成績からしても、産駒たちは成長を遂げながらさらなる活躍が見込めそうだけでなく、父も得意とした中長距離のレースが増えてからが真骨頂となっ ていきそうです。

8.1
[火]

ヘニーヒューズ賞

【ブリーダーズゴールドジュニアカップ [H1]】

ヘニーヒューズは父Hennessy、母Meadow Flyer(母の父Meadowlake)の14歳馬。繋養先は新冠・優駿スタリオンステーションとなります。現役時は10戦6勝。その中にはヴォズバーグS、キングスピショップSと2つのGⅠを勝利し、引退レースとなったブリーダーズカップ・スプリントまで、一度も連対を外すことがなかったヘニーヒューズでしたが、その名をさらに高めたのは、種牡馬入りしてからの産駒の活躍でした。先に種牡馬入りしたアメリカではBeholderがGⅠ11勝をあげる活躍。日本でもアジアエクスプレスが朝日杯FSを優勝、モーニンがフェブラリーSを優勝するなど、芝・ダートを問わない活躍で産駒実績を証明しています。日本では2014年シーズンからの繋養となり、今年デビューした日本での初年度産駒たちは、芝・ダート問わず続々と勝ち上がり、現在はファーストシーズンサイアーの総合ランキングで首位となっています。

8.16
[水]

アイルハヴアナザー賞

【エトワール賞 [H3]】

アイルハヴアナザーは父Flower Alley、母Arch's Gal Edith(母の父Arch)の8歳馬。繋養先は新冠・ビッグレッドファームとなります。3歳時にロバートBルイスSで重賞初勝利をあげたアイルハヴアナザーは、サンタアニタダービーでGⅠ初優勝。続く米牡馬三冠の第一戦ケンタッキーダービーを制すると、プリクネスSも制して二冠を達成。34年ぶりの三冠制覇に注目が集まりましたが、レース前に故障を発症してその夢が潰れてから数週間後、日本で種牡馬入りするというニュースは世界のホースマンを驚かせました。日本では2014年シーズンからの繋養となり、初年度産駒は昨年デビュー。芝、ダート、そして距離を問わずに産駒は活躍を続けており、昨年ファーストシーズンサイアーでは2位となる好スタートを切っています。世界に重賞馬誕生の知らせを届けるのもそう遠いことではなさそうです。

8.17
[木]

フェノーメノ賞

【フルールカップ [H3]】

フェノーメノは父ステイゴールド、母ディラローシェ(母の父デインヒル)の8歳馬。繋養先は安平・社台スタリオンステーションとなります。3歳の青葉賞で重賞初勝利をあげたフェノーメノは、日本ダービーへと出走。ハナ差でその年のダービー馬となったディープリランテに及ばずも、能力の高さを証明します。3歳の秋からは古馬を相手に戦いを挑んでいき、天皇賞・秋では勝ったエイシンフラッシュの2着。さらなる成長を遂げた4歳の春には天皇賞・春で悲願のGⅠ制覇を果たします。5歳時にも天皇賞・春に勝利して、史上3頭目となる天皇賞・春連覇を達成しました。2016年シーズンからスタッドイン。ステイゴールドの後継種牡馬でもひときわ恵まれた馬体は、世界を沸かせた名種牡馬デインヒルが入った母系の影響も強く出ており、繋養初年度となる昨年は146頭もの繁殖牝馬を集める人気種牡馬となっています。初年度産駒は2019年にデビューを迎えます。

「スタリオンシリーズ競走」は、一般社団法人JBC協会(ジャパンブリーダーズカップ協会)が産地の支援を得て、優勝馬の馬主や生産者に種牡馬の翌年度種付権利を副賞として贈呈する競走です。

※生産牧場が海外の場合は付与対象外となります。

